

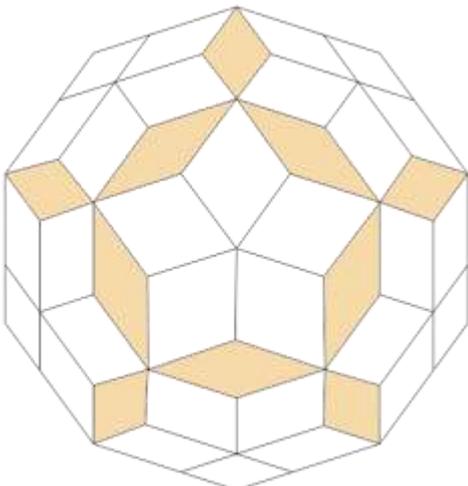
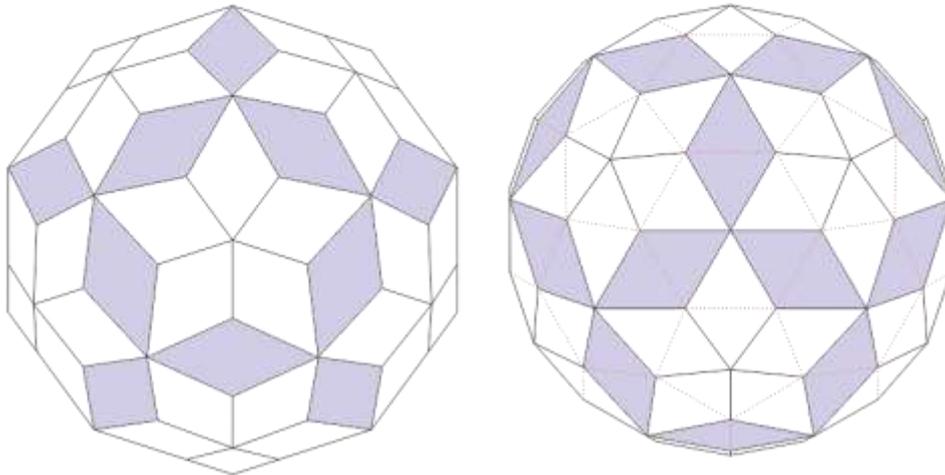
A.Sharp の立体(11)

中川宏

シャープの立体 No.11 は、30枚の菱形と60枚の扇形からなる90面体である。正十二面体の各面に扇形5枚からなる星形を置き、正十二面体の各稜に菱形を置いたものと理解できる。シャープの設計では、菱形の短い対角線と扇形の短い対角線の長さがそろえてあるので、それらを結んでいけばアルキメデス立体の切頂二十面体となる。

これとよく似た左下の菱形90面体は、ゾーン多面体・高次元立方体の三次元投影の脈絡において定義されてきたものであって、菱形の対角線比が、 $1:\sqrt{2}$ の菱形と $1:\tau^2$ の菱形からなるという、それぞれの美しさがある。

Sharp's solid No.11
(30 rhombs and 60 semi-rhombs)



Rhombic enneacontahedron